

TCM111

名川・岡村法律事務所創立101周年 東京音楽大学創立111周年 記念特別演奏会

NPLF101

Joint Celebration Concert

2019年1月10日(木)

東京オペラシティ コンサートホール

開演 18:30 開場 18:00

全席指定 1,500円 11月20日発売

ヴァイオリン
神尾 真由子 Mayuko Kamio

ピアノ
野島 稔 Minoru Nojima

管弦楽
TCM創立111周年記念オーケストラ

指揮
広上 淳一 Junichi Hirokami

P.I.チャイコフスキー /
ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品35

R.シュトラウス /
交響詩「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」作品28

W.A モーツアルト /
ピアノ協奏曲 第27番 変ロ長調 K.595

TCM
Tokyo College of Music
東京音楽大学

【会場へのアクセス】京王新線「初台駅」東口 徒歩1分 東京オペラシティ コンサートホール 〒163-1403 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー3F
チケット取扱 ·チケットぴあ 0570-02-9999(Pコード 130-673) ·東京オペラシティチケットセンター 03-5353-9999
チケット取扱 ·東京音楽大学A館地下カワイ売店(店頭販売のみ)

【主催】名川・岡村法律事務所 / 東京音楽大学 【問合せ】東京音楽大学 演奏課 03-3982-2044 ※乳幼児のご入場はご遠慮ください。※車椅子をご利用の方は演奏課までお問い合わせください。



TCM111 × NLF101

Joint Celebration Concert

2019.1.10_{thu} 東京オペラシティ コンサートホール

ヴァイオリン 神尾 真由子 Mayuko Kamio

東京音楽大学特任講師。4歳よりヴァイオリンをはじめる。2001年ニューヨークでデビュー、ニューヨーク・タイムズ紙で「輝くばかりの才能」と絶賛される。2007年に第13回チャイコフスキー国際コンクールで優勝し、世界中の注目を浴びた。これまで、国内の主要オーケストラはもとより、チューリヒ・トーンハレ管弦楽団、ロシア・ナショナル・フィルハーモニー交響楽団、BBC交響楽団、BBCフィルハーモニック、ブダペスト祝祭管弦楽団、バイエルン州立歌劇場管弦楽団、ベルリン・ドイツ交響楽団、ラハティ交響楽団などと共に演。指揮者では、C.デュトワ、M.ロストロポーヴィチ、E.インバル、V.スピヴァコフ、V.アシュケナージ、J.ピエロフラー・ヴェク、I.フィッシャー、T.ソヒエフ、O.カムなどと共に演している。近年では、ズービン・メータ指揮 ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団と南米ツアーや、フランソワ=グザヴィエ・ロト指揮南西ドイツ放送交響楽団と日本ツアーや、ルドヴィク・モルロー指揮イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団とイスラエル・ツアーやを行った。サン・モリツ、コルマール、ヴェルビエなどの著名フェスティヴァルにも出演。また、ソリストとして、ニューヨーク、ワシントン、サンクトペテルブルク、モスクワ、フランクフルト、ミラノなど世界各地でリサイタルを行っている。レコーディングではRCA Red Sealレーベルより最新CD「ヴァイオリン・アンコール」を含む5枚をリリース。大阪府知事賞、京都府知事賞、第13回出光音楽賞、文化庁長官表彰、ホテルオーケラ音楽賞はじめ数々の賞を受賞している。使用楽器はストラディヴァリウス1731年製"ルビノフ"を宗次コレクションより貸与されている。



©Shion Isaka

ピアノ 野島 稔 Minoru Nojima

東京音楽大学学長。日本を代表する世界的な名ピアニストであり、洗練された超絶技巧と深い音楽性で常に完成度の高いピアノ芸術の神髄を聴かせる。日本とニューヨークを本拠に、アメリカ、ヨーロッパ、アジアの各地でリサイタルを行い、オーケストラとの共演も、パリ、ロンドン、ニューヨークはじめ各地で、ヴォルフガング・サヴァリッシュ、ホルスト・シュタイン、小澤征爾、ネヴィル・マリナー、アンドルー・デイヴィス、ラファエル・フリューベック・デ・ブルゴス、フレリー・ゲルギエフ、ルドルフ・バルシャイ、パーヴォ・ヤルヴィ、ジャン・フルネらの指揮などと共に演している。日本の主要オーケストラとの共演は数え切れず、新日本フィル、東京交響楽団、NHK交響楽団、東京都交響楽団など、各オーケストラの海外公演にも度々ソリストとして同行し、いずれも絶賛されている。

また、モスクワとレニングラードで松村禎三氏のピアノ協奏曲第2番を演奏し、最大の賛辞を集めた。1992年にはNHK交響楽団との数々の名演が評価され、第12回有馬賞を受賞。1994年には、サントリーホールでリサイタル「野島稔・プレイヤーズ・ラヴェル」を開き、「近来稀に見る最高級の演奏」「奇跡的な技術と磨きぬかれた音楽性の円熟の極地」など絶賛を浴びた。CDは、「野島稔・プレイヤーズ・リスト」、「野島稔・プレイヤーズ・ラヴェル」をリリースし、「まぎれもない傑作」(ステレオ・レビュー誌)、「世界最高のラヴェル演奏の一つ」(レコード芸術)と、内外で激賞されている。

1945年横須賀市生まれ。3歳からピアノを始め、桐朋学園高校、大学、ソビエト留学まで井口愛子氏に師事した。高校3年の1963年、第32回日本音楽コンクール第1位・大賞受賞。



©Christian Steiner

指揮 広上 淳一 Junichi Hirokami

東京音楽大学卒業。1984年26歳で「第1回キリル・コンドラシン国際青年指揮者コンクール」に優勝。以来、フランス国立管、ベルリン放響、コンセルトヘボウ管、モントリオール響、イスラエル・フィルハーモニー管、ロンドン響、ウィーン響などメジャー・オーケストラへの客演を展開。91~95年にはノールショピング交響楽団、98~2000年にリンブルク交響楽団の各首席指揮者を、97~2001年 ロイヤル・リヴァプール・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者を歴任、このうちノールショピング響とは94年に来日公演を実現している。また91~2000年には日本フィルハーモニー交響楽団の正指揮者を務め、96年の欧洲演奏旅行を指揮したほか、R.シュトラウスの『英雄の生涯』やハイドンの交響曲など、多くの瑞々しく壮大な快演を残した。近年では、ヴァンクーヴァー響、ミラノ・ジュゼッペ・ヴェルディ響、スイス・イタリア管弦楽団、サンクトペテルブルク・フィルハーモニー響、ボルティモア響、シンシナティ響、カルガリー・フィルハーモニック、スタヴァンゲル響、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、ポーランド放響、スロヴェニア・フィルハーモニー管、スペイン・ビルバオ響、サン・パウロ響等へ客演。06~08年には米国コロンバス交響楽団音楽監督を務めヨーヨー・マ、ミドリをはじめ素晴らしいソリストたちとともに数々の名演を残した。2008年4月より京都市交響楽団常任指揮者を経て、2014年4月より常任指揮者兼ミュージック・アドバイザー。2015年4月京都市交響楽団とともにサントリーユ音楽賞受賞。現在、東京音楽大学教授、京都市立芸術大学客員教授、東京藝術大学指揮科講師。



©Masao Tomitori

TCM 創立111周年記念オーケストラ

東京音楽大学の学生、教員、卒業生で構成された特別編成オーケストラ